

目 次

まえがき

第1章 平和の人類学 序論——小田 博志 Ⅰ

- 1 問いの設定 Ⅰ
- 2 「平和」の現場から 3
- 3 「平和」の概念を問い直す 3
- 4 人類学的な平和へのアプローチとその意義 6
- 5 平和生成論のアウトライン Ⅱ2
- 6 再び現場へ Ⅱ6

第Ⅰ部 平和をつくる

第2章 南部スーダンにおける草の根平和構築の限界 と可能性——栗本 英世 27

- 1 平和構築の主流化 27
- 2 上からの平和と下からの平和 28
- 3 内戦と南部スーダンにおける平和構築 33
- 4 アコボ会議からウンリット会議へ 38
- 5 草の根平和構築の問題点と可能性 42

第3章 東ティモールにおける非暴力の思想〈ナヘビティ〉 ——辰巳慎太郎 49

- 1 はじめに 49
- 2 〈アウトサイダー〉の視点と行動 51
——被害者に寄り添い、加害者の裁きを求める

- 3 〈インサイダー〉の視点と行動 57
——加害者を受け入れ、自己の過ちを認める
- 4 裁きでも、赦しでもなく 63
- 5 おわりに 65

第4章 歴史の他者と出会い直す——小田 博志 70

——ナチズム後の「和解」のネットワーク形成

- 1 序 論 70
- 2 「行動・償いの印」が形成するつながり 73
- 3 結論と考察 83

第Ⅱ部 平和を伝える

第5章 中米グアテマラにおける内戦の記憶と和解

——関 雄二 95

- 1 ポスト内戦期の社会における記憶の問題 95
- 2 グアテマラの内戦とその歴史的経緯 98
- 3 パンソスにおける土地闘争と惨劇 100
- 4 コミュニティ・ミュージアムの建設 102
- 5 新たな記憶回復運動 106
- 6 結論にかえて 110
——記憶をめぐる装置での実践と和解の可能性

第6章 平和博物館の〈再発見〉に向けて——福島 在行 118

——現代日本という場（フィールド）で考える／試みる

- 1 はじめに 118
- 2 日本の「平和博物館」 119
- 3 平和学者と「平和博物館」の定義 122
- 4 平和学的「平和」を前提とした展示 126

5 平和博物館との対話——〈再発見〉に向けて	131
------------------------	-----

【ガイド】 平和博物館・平和のための博物館の探し方	138
---------------------------	-----

第Ⅲ部 平和を問い直す

第7章 平和の現場の歩き方——	内海 愛子	143
-----------------	-------	-----

——アジアで考える戦争と植民地

(インタビューと構成：辰巳 頼子・辰巳慎太郎)

1 はじめに	143
2 「現場」に出会うまで	144
3 現場に立つ	147
4 現場が広がる、現場から広がる	148
5 現場と対話する	152
6 自分が変わる、相手が変わる	154
7 ポジティブ・ピースという希望	158
8 日常から考える——現場から概念化する	159
9 現場を歩く——その歩き方	162

第8章 「平和の脱・国際政治学」——	金 敬黙	167
--------------------	------	-----

——北朝鮮問題と向きあう韓国、日本のNGO・市民運動

1 はじめに——国際政治学と平和学	167
2 「平和の脱・国際政治学」	169
3 古典的統一観の克服——『小学生のための平和教育教材』	175
4 トランスナショナルな試みから学ぶ	179
——「南北コリアと日本のともだち展」	
5 おわりに——「平和の人類学」に向けて	183

第9章 避難が生み出す平和—————— 辰巳 頼子 187

——原発事故からの母子避難者が形成する新たなつながり

- 1 はじめに 187
- 2 避難の人類学 188
- 3 避難する人々の視点——母子避難者を事例に 191
- 4 関係性がつくる平和 200
- 5 おわりに 205

あとがき

索引